

Europe Indicators

発表日: 2023年10月19日(水)

欧州経済指標コメント: 9月英国消費者物価

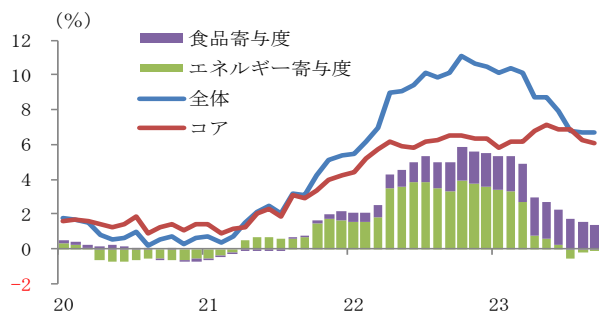
～インフレ率の鈍化、一気には進まず～

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 田中 理 (Tel: 050-5474-7494)

- 18日に発表された9月の英国の消費者物価は前年比+6.7%と前月から不変。原油価格の再上昇を反映し、エネルギー価格（前月：同▲3.2%→今月：同▲0.2%）の下落率が縮小、8月からの酒税引き上げの影響からアルコール飲料（同+9.2%→同+10.5%）の上昇率が加速した一方、最近の物価を押し上げてきた食料品（同+13.6%→同+12.1%）の上昇ペースが鈍化したことや、コア物価（同+6.2%→同+6.1%）の上昇率鈍化が相殺した。
- コア物価の内訳は、利上げ効果の浸透を背景に家財道具（同+5.1%→同+3.7%）の上昇率鈍化が一段と進んだ一方で、授業料の引き上げを反映した教育費（同+3.2%→同+4.1%）の上昇加速や、前月に大きく上昇率が鈍化した航空運賃（同+12.0%→同+14.9%）や外食費（同+7.0%→同+8.3%）の上昇率が再加速した。財価格の上昇鈍化が続いているものの、サービス価格の粘着性の高さが確認された。
- 17日に発表された6～8月平均の全産業の賃金・賞与は同+8.1%と、5～7月平均の同+8.5%から上昇率が鈍化。内訳は賃金が5～7月：同+7.9%→6～8月：同+7.8%に僅かに上昇率が鈍化したことに加えて、6・7月に大幅に上昇が加速した賞与が同+18.8%→同+11.6%と上昇が一服。賃上げや処遇改善を求めるストライキが散発的に続いているが、賃金上昇率が物価上昇率に追い付き、賃上げが大幅に加速する局面はひとまず終わった可能性がある。

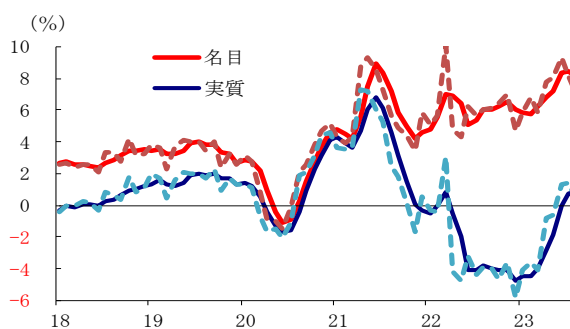
■英国：消費者物価の推移（前年比）



注：コア物価は食料・たばこ・アルコール・エネルギー除く

出所：英統計局

■英国：週当たり賃金・賞与（全産業、前年比）



注：実線は3ヶ月移動平均値

出所：英統計局

■英国の消費者物価 (%)

		2022				2023				2022				2023			
		4Q	1Q	2Q	3Q	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
消費者物価	(前期比)	2.9	0.8	2.6	0.3	0.4	0.4	-0.6	1.1	0.8	1.2	0.7	0.1	-0.4	0.3	0.5	
	(前年比)	10.7	10.2	8.4	6.7	10.7	10.5	10.1	10.4	10.1	8.7	8.7	7.9	6.8	6.7	6.7	
コア消費者物価	(前期比)	6.4	6.1	6.9	6.4	6.3	6.4	5.8	6.2	6.2	6.8	7.1	6.9	6.9	6.2	6.1	
	(前年比)	16.5	18.0	18.2	13.5	16.4	16.8	16.7	18.0	19.1	19.0	18.3	17.3	14.8	13.6	12.1	
アルコール	(前期比)	3.8	5.8	6.9	8.9	4.1	3.5	5.8	5.7	5.9	7.0	6.9	6.7	6.9	9.2	10.5	
	(前年比)	5.3	4.9	11.4	11.8	4.0	3.9	4.5	5.7	4.7	11.0	11.5	11.6	11.8	11.8	11.9	
エネルギー	(前期比)	55.8	46.8	7.4	-3.8	55.6	52.8	51.2	49.0	40.5	10.8	8.4	3.2	-7.8	-3.2	-0.2	
	(前年比)	89.2	87.9	23.8	5.0	89.0	88.7	89.5	88.6	85.6	24.3	23.7	23.3	4.5	5.3	5.0	
住宅用燃料	(前期比)	16.8	1.9	-15.2	-17.3	17.2	11.5	7.7	4.6	-5.9	-8.9	-13.1	-22.7	-24.9	-16.4	-9.7	
	(前年比)																

注：消費者物価の前期比は季節調整前。コア消費者物価は食料・アルコール・たばこ・エネルギーを除く。出所：英統計局

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

